2018.03.06 UOL.

CONTEN

研究推進

JST 未来社会創造事業 「健康寿命延伸のため

パーソナルライフケア ICT 基盤の創出」

モデル 確立 要な 握 関する研究を実施します。 ごすため 、ます 健 0) その かと が、 康維持の て に 0) い 個 、ませ 人の 個 いう情 人個 般的 人 ために最 個 健 人の日 人 報 康 な情報は世 維持 本 0 を提供する技 未病状態 研 究で 0 適 々 な行 ため 0) 健 0 は、 康状 動 0) 中 には何が必 長 に溢 0) 早 術 状態を把 選 期 野 はまだ 一県を 発見 れて 定

康

食品

や運

動

など、

健

康

的

に

 \Box

常

を過

なり うち たば され 件 領 \Box ステージゲー 究であり、 ジェクト で ĺ 移行できると 組みます 1 域 昨 玉 0) その 本事 す。 かり ました。 0) 応募があ 0) 0) Oましたの 年 大学の 創 ヒューメインなサービスインダスト が 1.1 業は、 うち2件 未来社会創造事業全体 世 出 のプロジェ 月 4 は、 に、 に採択された12課題 界 領 域に 单 信 b, 以 で、 1 5学部 1州大学では ・をク 1 表 下 でも3位 0) その うものであり、 ここに紹介させて頂 0) が 安全・安心社会の 分かれていますが、 記 5 年 記のプロ クトです。 ij ような内容 採択され、 单 アー にまたがる学際的 0) になり から55件 探索研究をへて、 ジェ 9 すると本格研 伜 クトに採 **/ます。** 採 では のうち 重 に 0) まだ始まっ 択率 申請 つ が 点公募の 採択に い 6 2 1 実現 その 本プ きま 7 で が 0) 取 な は あ 択

> 動 繋 能 定

かすこと) がる最適な

を自然に提案するサービスを実

値や個々の

が好みや

傾向などと併せて人工

知

健康維持や健康

長寿

ICT基

盤にデー

タを蓄積

ί

日

々

 σ

測

技術を基に推定

行動

睡

瓹

休憩、

食事、

体

を

がする事

にあります。

そこで当提案では、

上

02030

年に目的

指す社会の姿を実現する

ために、 記

以下のP

○○(Proof of concept:

概

、ます

ニタリ Po そ ることにより、 動 など健康 を 重 念実証) こスの仕 身健康 実現 デバイスなど) 点 れ (睡 健 を上 ك 眠 B 康寿命 ングサービスを創出することを目指 するため を実施することにしてい 様の 精神疾患を含む未病状態の 休憩、 維持のために必要に応じて最 モニタリ 口 コ 「るだけ ニロリ 策定。 学術研究院工学系 教授 (疾病の発生を防ぐ一 食事、 平. に必要となる要素 均 0) ングシステム を実現 0 これらを本格研究に繋げ 寿 運動等) 仕様の策定、 健 命の 康 させる心身 寿 増 命 を提案するサ 加は 0) (ウエアラブ 増 ③食や運 0) もとより 一次予防 加 早期 抽 脳道な行 健 に 出 により 発見 康 (2)

研究推進

- ▶ **01** JST 未来社会創造事業 「健康寿命延伸のため のパーソナルライフケ アICT基盤の創出」
- ▶ **02** OVIC 入居募集
- ▶ **03** 第3回知的財産セミ ナー「機能性食品の特 許化と知財戦略」

地域連携

- ▶ 114 冬の防災・救命救急・ 寒中の「もしも」に備 えよう一
- ▶ 05 信州ベンチャーサミッ ト〜起業家魂を信州 から世界へ~

産学官連携

- ▶ 06 第1回信州大学大学発 ベンチャー創出・支援 セミナー
- ▶ **0 1** 信州メディカル産業振興会 洗浄滅菌部会·救急医療 機器開発部会

問合せ先 E-mail: ken-renkeika@shinshu-u.ac.jp 産学官地域連携課 0263 - 37 - 2087 岡崎・松澤

元成イグーク区(特旦・試育足2階建、延休田債・割 1,000 111)						
岩	『屋番号	面積	一般企業等 2,160円/m² (月額)	学内研究者 大学発ベンチャー 1,188円/㎡ (月額)	備考	
1階	102号室	4 7 m²	101,520円	55,836円	化学実験対応	
	103号室	4 7 m²	101,520円	55,836円	化学実験対応	
	107号室	2 5 m²	54,000円	29,700円		
	108号室	2 8 m²	60,480円	33, 264円		

※平成30年3月6日現在の空室状況です。上表のご利用料金は図面上面積での 概算金額となり、実測面積に基づく実際のご利用料金とは異なります。

センターの概要	施設名:信州大学オープンベンチャー・イノベーションセンター(OVIC) 所在地:長野県上田市踏入2丁目16番24号 室数:全19室(9室は化学実験対応仕様) その他:多目的ルーム、ラウンジ等の共用スペースを保有			
入居要項 (抜粋)	下記項目のいずれかに該当する皆様のご入居を広く募集致します。 ア、OVICの設立趣旨に適う研究開発、事業展開を図ろうとする企業・団体等。 イ、本学の研究成果の活用または大学との連携により、新たな事業展開を図ろう とする大学発ベンチャー。 ウ、国、地方公共団体、独立行政法人、公益法人、企業及び団体と共同研究等を 行う本学の教職員。 エ、その他本学が入居を適当と認めた者。			
入居審査	所定の「入居申込書」および「事業計画書」をご提出頂き、書類審査により入居の可否を決定致します。提出書類の様式は、OVICのホームページよりダウンロード頂けます。http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/ovic/home.html			
※入居要件等の詳細は、OVICのホームページを御覧ください。				

動

睡

眠

など

健

康

状

態

体

温

拍 生 0)

尿、 (運

(便など)

を、

より

精密

かつさりげ

なく計

測

康

生活をモデルとして、

食や日々

0) 脈

0)

イメージは、

長

野

帰の

長

寿

Ì

食

健

本提

案での20

3

Ō

年

に

 \parallel

指 本

す

社

会の

センター」入居募集中!事業「オープンベンチャー・イノベーション事業「オープンベンチャー・イノベーション文部科学省・地域科学技術実証拠点整備)の研究推進

伊那キャンパス開催 第 3 回知的財産セミナ

TEL: 0263-37-2074

TEL: 026-269-5642

TEL: 0265-77-1647

chizai@shinshu-u.ac.jp

上田* TEL: 0268-25-5181

お問合せメールアドレス(全学共通)

知財相談窓口

第

03 研 究推進

3 知 的 財産 機能性食品の特 セミナ 許化

第 3 回 しました。 月 25 日 知 (未 的 財 産セミナー 伊那キャ ンパスで開 を平成30

11月22日) -度は、 2回 招いたセミナー 産戦略 産 の特許審査基準 的財産グル を上 て 能になった。食品の モ 第 許 食 田キャ 戦略」 を ノづくり 1 事 に実施しました。 品分野 長 口 務 野・工 所 「ファッションと知的 は、 と題して、 ンパス を実施し ブ 事業に 弁理 0) の改訂により権 で 「機能性食品 学部 特許に詳し 土 10 月 27 におけ 用 丰 外 ており、 ·北野善基 平成 途特 ヤ 部 る知 ン 専 パ い三 28 門 0) 旦 本 年 特

事

第 財 年

にご講 が可 化と知財 第3回セミナー 情 が良い 演 くない中、 ただきまし 学内 た。 外 積 か 雪で交 ら 40

明

品を機能性で差別化する表

示として

参加がありました と知財

0)

う特許を取得できます。 テキンを含む ン入りの緑茶飲料に二日酔 です。 使い方) は特許化できませんでした。) あることを新たに見出 たな用途への使用に適すること 途発明とは、 具体例をあげると、 を見い出したことに基づく発 日 既に知られている 一酔い防 止用飲料」 した場合、 (審査基準 既存の い防止効果 (新 とい カテ 改 力 訂

が

明

プリ 新し いただきました。 例 セミナーでは、 デール方、 い用途を立証するための試 制用食品」 「グリナ」 て、 アンケー 味の素㈱の睡眠サポ B を取り上げて、 用途特許が認め 日本大学の ト方法等詳しく説 権利範 Ш. 験やデー 1 5 糖上 トサ れ

大きなメリッ 食 その食品 ることが 者による同様の 示 品 食品等がありますが、 特定保健 0) 特許化は企業にとっ できる点で、 0) 用食 製造販売を排 トがあります。 機能性表 品や機能 機 能 示と、 第 能 除 性 性 す 表

※信州 TLO につながります。

内線:(811-)2074

内線:(821-)5642

内線:(841-)5873

内線:(851-)2706

受け 究成 用 性 知 的 化 食 して 財 果 品 関 産グルー 0) 0) いま す 特許 取 る 扱 相 正化をは いいや す。 - プでは、 談 を幅 お · 特 気 許 じ 広く 軽 化 め

こ相談ください。

知的財産・

学術研究支援本部 ベンチャー支援室 阿部 紀里子

冬の防災・

救命救急

寒中の「もしも」

に

備えよう

ı

開

普及のため広く活動を行

つ

7

いる

一の巧みな話術に参加者

同

時

に 大

笑 先

いもまじえた素晴らし

い講演となり

94

地

域連

携

冬の防 国 際 21 後の連携だけでなく、 りました。 克彦情報センター ベント いただきました。 ついての情報発信の重要性について言及 めに信越放送株式会社取締役である長岡 に備えよう - 」 センターとSBC信越放送による共催 大寒の2月3日(土)長野市のホテル |災・救命救急 - 寒中の 「芙蓉」 「第6回防災市民シンポジウ 地域防災減災センターとの今 において、 が開催されました。 長の開会挨拶から始ま これからの防災に 地域防災減災 一もしも はじ

センター

医療支援部門長である今村浩先

0

「冬季における救命救急の課

題

と

る方々も多く見られました。

続

いて

防

災 取 説

は

非常に理解しやすく、

熱心にメモを

特に体のメカニズムについての

解 ŧ は 橋

題した講演が行われました。 害を防ぐために体のしくみを学ぼう」 授である大橋俊夫先生による「家庭内災 趣旨説明の後は信州大学医学部特任教 医学知識 بح



防災センター 医療支援部門長 今村先生の講演の様子

いただきました。 いて話していただき、 を利用した救急対応についてもお 後半は、 休憩時に参 身の 加者に記入しても 回りにあるも 救急の症例をもとに寒冷時 題した講演が行われました。

0)

注意点に

つ 命

実際の

救

なく、 論を行 いう特殊性の理 が行われました。 同組 がわり、 ンプル 働を予定している、 防災センターやD いとして菊池 った質問用 も実施しました 防災食に関するシンポジウムで 合の展示も行いました。 いました。 心理 の提供もい 紙の内容をもとに全体討 面 一解の !防災センター 冬の 会場内の 地域特性もまじえた討 ただき来場者 M A T の 長野 防災・ 助となることを 県凍豆腐工 紹介 ネル展 -長と横 救命救急と 凍 だけ b 0) 豆 Щ 示 配 腐 業 0) で が

5

知 **流識の普及に取り組んで参ります** 5 でし 者アンケー 日 た。 は 大の研 およそ80 今後 1 究シー も産 -の結果: 人の 学官 ズを活かし 小も満 来場者が の連携を行 足 足度の高 あ た り 1) W ŧ 来 な

横山 俊-

産学官連携・

地域総合

戦略推進本部

05 地域連携

信 州 ベンチ ヤ 起業家魂 サミット を信州から世界

じ良いくらし」 にする事業~ レゼンテー てお話がありました。 画グル ンターにて開催されました。 みへ挑戦する起業家の事業や構想をプ 中心となり、 第 目 回の金井 講演には やすい県づくり」に取り組む長野県 6 (土) にTOiGO長野市 講演があり、 回 信 プ全体の 政明氏 州ベンチャーサミッ ションする場を設けました。 無印良品の思想と活動と人 長野県出身の株式会社良品 を実現するために、 新たなビジネスや更なる から 無印 企業価値向上につ 「縮む社会を幸せ 良品の目指す ٦ إ 生 1 一涯学習 が2月 本一創 良品 「感

風 チ ボ 市 運 化 認

起業家ピッチでは10名の起業家が

5



信州ベンチャーサミット登壇者

介されました。 と地域 株式会社 分という短い時 た健康ソリューションの提供の発表があ あるウェ しています。 REEKS賞とグランプリには株式会社 より良くするための取り組みについ 出を生 動プロ 知症 からも、 を目指しており、 ーズ責任者(CCO)と称して信州 スケソの是本氏が受賞しました。 のコワーキングスペースを利用できるC がありました。ビジネスモデル賞には を発表しました。ITの活用や健 食品事業など、 今後の展開が期待できる内容でした。 州 経済の発展に貢献する事業を展 予防のための早期発見検査や予防 起業討論会では の中 ルナスからは、 一かしたチーズ作りと更なる産業 グラムを展開するヘルコミラボ 信州の未来を考えた事業が紹 惜しくも受賞を逃した発表 出氏が受賞しました。 信州大学発ベンチャーで 間で自身 様々な業種で信 地域の食文化の創 個人に最適化 0 地域 事 業 内容と 0) 最高 長野 て紹 州 康 開 造 0 関 魅

学生を含めた若手が参加できる仕掛 州 チ 長野県内の創業施策は楽しみです。 大事であることに触れました。 ネットワー 0) り、 で創 パネリ ヤー 更なる地方創生に繋がるので、 信 て新し ストが持論を展開しました。 エコシステム」について、 を ク形成が重要なカギとなり、 増やすために い挑戦を応援する仕 は制度や人的 地域 組

地域総合 弘充

学術研究支援本部

知的財産・

ベンチャー支援室

角田 哲啓

汷

· 06

産学官連携

産学官連携 戦略推進本部 中西

1

チャー ター 0) 大学発ベンチャー創出・支援セミナーと ターとの連携により、 造 め 大学における研究成果を社会実装するた 的財産・ベンチャー支援室を立ち上げ 第1回 オー 「Pre University Accelerator ~研究成果の事業化に向けて~」 の出口 取 信州大学では、 て「Pre University Accelerator」を 等を運営する をテーマに、 り組みをスタートしました。この プンイノベーションによる事業創 を位置づけ のひとつとして大学発ベン 信州大学 大学発ベンチャー創出・支援セミナ 平成29年10月1日に知 事業創造アクセラレー (株) その創出や成長支援 第 1 回

度

前半の

た。

合

田

昇

 \exists

1 に

ま

実施しています Pre University Accelerator は

事

ゼロワンブース

信州大学



ケッ

事業創造セミナーで講演する(株)ゼロワンブースター

少

人数

たト

合田共同代表

加者

タリング」では、 ション」とは何 ミネラルウォーターのペットボトル ジョージ共 び個別メンタリング」で構成されてお レーニングを行う予定です トフィット 導入を行いました。 クショップ及び個別メンタリング」 全員での簡易的なワークショップを通 語っていただきました。 本当に必要な8つのことについて、 の考える研究開発成果の事業化のため 例等を交えて「破壊的 の事業創造と日本の課題 するプログラムで、 によるビジネスプランの構築をサポ 大学等における研究成果の事業化に向 業創造セミナー」と 後半の すために必要なこと」では、 平成30年2月、3月に実施予定の「ワー 事業創造に関する情報提供や研 で研究成果の事業化に向け 株 「事業創造セミナー」 「ワークショップ及 、同代表による基調講演 ゼ ロ T M F か、 ワ テクノロジー さらには、 平成29年12月16 ンブー ーワー 等の手法を用い ・逸脱的イノベ 続いて、 大きな事業を ゥ スター ショ を開催 び 合田 個別 30 年 マー ップ 世

に 表 0) 前

事

ズオン支援を提供し、 後もセミナ 外部 的財 の支援機関との連携による 産・ベンチャー 10 開催等を通じた情報提供 大学発ベンチ 支援室では

の創出や成長を支援していきます

้ยา

信州メディカル産業振興会

産学官

地域連携課

山崎

守雄

洗浄滅菌部会・救急医療機器開

います。 販路開拓まで一 つ技術シーズのマッチングを行い 医療現場のニーズと地域企業が持 ディカル産業の振興を目的として Association))は長野県地域のメ 同研究による医療機器開発から 信州メディカル産業振興会 ≺(Shinshu Medical Industry 連の活動を行って ŝ

で役立つ医療機器開発を目指す「救 浄滅菌部会」と、 を企業様に提供する活動を行う「洗 (する医療機器ビジネスのヒント SMIAの中には、 救命救急の現場 浄滅菌

> います。 会があり、 急医療機器開発部会」の2つの 毎年講演会を開 催

①洗浄滅菌部会

工場で生産した製品なのか、どこ した等の異常時に、いつ、どこの などで浸透している製品管理の仕 平成29年11月 みのことで、 始めた病院 サビリティー」とは食品業界 講演会を開催しました。 II I と題し、 サビリティー」 製品に異物が混入 29 0) \exists \vdash 昨 水 年に引き続 1 に サ をテー ト IJ 動

部

緊急医療機器開発部会 講演会

洗浄滅菌部会 講演会 2

洗浄滅菌部会 講演会 1

害現場における医療の実際」と題 実際の災害現場において活 ·成30年1

ている救命救急士や災害医療派

からご講演いただき、 して美寿々酒造の杜氏の熊谷社長 スタッフから、 械の電子認証の講演を信 が容易に行える仕組みの事を言 売したの 今回は信大病院 原 料 を使 か、 用したの など商品の履歴管理 また、 0) 現状、 か、 特別講演と 医療現場 どこで 大病院の 手術器

販

チー

M

A T

隊員

からご

講

いただき、 \mathcal{L} $\widehat{\mathbf{D}}$

救急医療機器開

講いただき、有意義な講演会になっ たと思います。 療現場の声、 講演会には約50名が参加し、 食品業界の現状を聴 医

ただいたことにより、

救急医療機

たのではないかと思います。

発のヒントを掴んでいただい

後も講

演会等の開催を通

県地域のメディカル産業振興

聴講いただきました。

講演会に引

の様子、

現場での苦労話などを

き続きDMATの資器材を見学

紹介していただきました。

の応用・導入につながるヒントを

際に出動した災害現場での

医療活

た。

講

演会には約45名が参

加

実

見ることのできる機会を設けまし

も併

催

救急医療機器を間近 ATの資器材の見学会

さらにDM

く機会となるよう開催しました。 につながるヒントを探っていただ

救急医療機器開発部会

月30日(火) に 災 を支援していきます。

緊急医療機器開発部会 見学会

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 [サイロ]

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 CSMIT内 TEL:0263-37-2091 FAX:0263-37-3049

WEB サイト: http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirlo

